

第6回 静止気象衛星に関する懇談会 議事概要

令和4年6月21日

1. 懇談会の概要

日時：令和4年6月21日（火） 10：00～11：20

場所：気象庁7階会議室1 及び オンライン会議

議題：

中間とりまとめ（案）

出席者：

静止気象衛星に関する懇談会 委員

足立 慎一郎	民間資金等活用事業推進機構 代表取締役社長
沖 理子	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 第一宇宙技術部門 地球観測研究センター長
佐藤 正樹	東京大学 大気海洋研究所 教授
佐藤 将史	一般社団法人 SPACETIDE 理事・COO
高藪 縁	東京大学 大気海洋研究所 副所長・教授
中島 孝	東海大学 情報理工学部 情報科学科 教授（副座長）
中須賀 真一	東京大学 大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授（座長）
根本 勝則	一般社団法人 日本経済団体連合会 参与
藤本 真人	日本放送協会 報道局 災害・気象センター長
藤原 謙	ウミトロン株式会社 代表取締役
村田 健史	国立研究開発法人 情報通信研究機構 オープンイノベーション推進本部 ソーシャルイノベーションユニット 総合テストベッド研究開発推進センター 研究統括

気象庁出席者

情報基盤部長	千葉 剛輝
情報基盤部情報政策課長	太原 芳彦
情報基盤部気象衛星課長	長谷川 昌樹
総務部参事官	安田 珠幾
総務部企画課長	室井 ちあし
総務部企画課国際室 海外気象プロジェクト推進官	岡垣 晶

2. 懇談の概要

- 中間とりまとめ（案）について懇談を行い、一部修正して公表するとともに、懇談会同日に報道発表及び記者会見することについて、了承された。
- 民間等によるデータ利活用に関する具体的な方策については、引き続き懇談会で議論することとなった。

3. 意見・質疑応答

① 中間とりまとめ（案）について

（委員）4章の「利活用促進の取組」の（3）産学官連携による利活用促進の実現について、「データを扱うことを専門とする企業等による利用」のところに、「国内外の」という文言を入れていただきたい。アジア太平洋を中心に、海外の企業も入れようという議論があったかと思う。

（気象庁）中間とりまとめの当該箇所に「国内外の」を追記する。

（委員）概要資料のひまわりリクエストについて、通常の10分毎の観測に加えて、狭い範囲を狙った2.5分毎の機動観測機能があり、ひまわりリクエストはこれを利用しているということを、ひまわりの機能について理解を深めていただくために、記載するのがよい。

（気象庁）中間とりまとめの概要に、ご指摘の事項を追加する。

（委員）概要資料に台風や線状降水帯対策には静止衛星がないといけないということも記載してはどうか。

（気象庁）中間とりまとめの概要に、ご指摘の事項を追加する。

（この場で委員から出たご意見を基に、気象庁と座長とで中間とりまとめの最終版を完成させることと、本日16時に報道発表及び記者会見を行うことについて、了解いただいた。）

② データ利活用に関する今後の検討について

（委員）従来の分野を超えたデータ活用について、防災やまちづくりに限らず、民間の例えば金融、ヘルスケア等もっと多様性を意識して、今後議論していくことが重要。

（委員）民間による商用利用については、引き続き議論した上で最終の報告書に入れる

ことになるだろう。データポリシーについて十分議論し尽くしてからのほうが良いと思う。

(気象庁) 気象庁は、気象庁の様々なプロダクトを商業利用も含めた民間の活動に活用するために、配信を主な役割とする民間気象業務支援センターを法的に位置づけていて、民間向けにはここからひまわりのデータを提供している。この考えの基本に立って、ひまわりの利活用分野をさらに拡大させていくことをどのようにしていくかというご指摘と理解した。今後議論する項目として残しておきたい。

(委員) まちづくり等の分野という防災関係の印象を受ける。これまで民間の活力を入れていく議論をしてきた。気候変動についても議論してきた。これらの利活用については今後議論していくことにして、最終のとりまとめに入れていただきたい。

(委員) 今回の中間とりまとめの内容を今後しっかり具現化していけるように、省庁横断的に、オープンな場での官民のプラットフォームを活用した対話などを含めてしっかり取り組んでいくことが重要。

(委員) 産学官連携でのデータ利活用促進について、対話の場を設けるのだろうが、具体の取り組みについてはまだ決まっていないと思う。

(気象庁) ご指摘の点は今後の懇談事項とさせていただきます。

(委員) 今後は民間の利活用拡大が特に重要になっていく。今後のさらに深めた検討をしていただきたい。

(委員) 小型衛星のデータや、今後はIoTなどそのほかのデータと融合されていくことによって、ひまわりのデータ利用が進んでいくというような議論もあった。ひまわりを軸にしたスコープの中だけで議論していても、実際のデータ利活用の将来像を描き切れないと感じている。そのほかのデータと融合させたり、民間利用を促進させたりすることで、それが結果として、ひまわり自体の社会全体の貢献度を高めるという方向性にもなると思う。こうしたことを今後議論できるとよい。

(委員) ひまわりだけでなく、予測データや、ほかの観測データと一体化したデータプラットフォームを検討していくということで、これには期待したい。

(委員) 民間の方が参加しやすいように、どう敷居を下げていくのかという議論があっ

た。いかにオープンデータとして一般の方々にとって使いやすいものに落とし込んでいくのかというところを、今後議論できるとよい。

(委員) トンガの火山噴火は非常に衝撃的だった。噴火そのものは通常の 10 分毎の全球観測で観測していて、その後オーストラリアからのひまわりリクエストで機動観測を実施したそうだが、今後は AI などを使い、火山噴火や低気圧の急発達などの大きなイベントがあった際に自動的に検知して機動観測を開始できるシステムが近い将来あってもよいと思う。

③ その他

(委員) 6 月 3 日に、向こう 10 年間を対象とする政府としての PPP/PFI 推進アクションプランが民間資金等活用事業推進会議で決定された。この中でも、令和 4 年度開始の関係省庁連携の取組として、人工衛星の管理運用における PPP/PFI の導入をよりよい形で促進していくことが盛り込まれており、大変すばらしいと思う。今後、この適切な具現化へ向け取り組んでいくことが重要。